

## 第3章 コンテンツ販売

### 電子書籍

## 大手出版社の参入で裾野広がる ネットと紙が連動した新しいビジネスモデルへ

### 「パブリ」参入で大手の動き活性化 出版社と電子配信ASPの連携進む

小説やコミック・写真集などを電子データ化し、インターネットなどで流通させる電子書籍（eBook）は、音楽や映像と並ぶ有力なコンテンツとしてビジネスの成り行きが注目されてきた。その胎動が既存の出版界全体にまで幅広く広がり、顕在化してきたのが、昨年から今年にかけての大きな動向である。

業界が電子書籍への取り組みを本格化したと話題になったのが、2000年9月に配信をスタートした「電子文庫パブリ」

である。光文社が1999年に始めた「光文社電子書店」が母体で、やがて角川書店・講談社・集英社・文藝春秋など大手出版社8社による共同配信に発展したものである。複数のファイル形式で、テキスト主体の文庫本を中心にダウンロード販売を行っている。他の出版社への参画呼びかけも強めており、すでにグループは20社前後になっていると見られる。

一方独立系では、1995年にパソコン通信の時代からスタートした老舗の「電子書店パピレス」が依然好調だ。すでに配信点数は6000点以上を数える。パピレスの場合はコンテンツの電子化と配信のみを担う事業スタイルであり、もともとのコンテンツ（紙の書籍やDTPファイル）は既存の出版社から提供されたものである。実験的か本格的か、その取り組みの姿勢は出版社ごとに異なるものの、新潮社・主婦の友社など提供社数は90を超える。

また、凸版印刷は、講談社『フライデー』など出版社の書籍・雑誌を電子化し、自社のbitway-books や大手プロバイダーに手広く卸すビジネスモデルを提供している。

近い将来に本格化する可能性を見据え、電子書籍ビジネスに手を出そうと考

えている出版社は増えているが、出版社の経営規模自体は他の業種に比べて小さい。課金・配信・著作権管理システムを自前で構築する体力がある出版社は少なく、パブリやパピレスなど少数のASP的事業者と、コンテンツを供給する多数の出版社が提携する構造になっている。

### やはりコミックが市場を牽引 イーブックイニシアティブに注目

パピレスやbitway-booksでも好調なように、電子配信でもともと実績を挙げってきたのはコミックや写真集である。小学館・講談社・白泉社の共同サイト「まんがの国」では「名探偵コナン」など連載中の人気作品を、閲覧期間制限付き1回分50～70円で配信している。

コミックの分野で今後の動向が注目されるのが小学館や凸版印刷が出資したイーブックイニシアティブジャパンだ。2000年末に立ち上げた10daysbook では、『サイボーグ007』『ドカベン』といった名作コミックが1点200～500円程度で手に入る。同社のユニークな点は、PDFなど通常のファイル形式ではなく、コミックの紙面をそのままスキャンしたものを専用のリーダーによって再現する点にある。1冊あたり15MBと、完全にブロードバンドのユーザーをターゲットにしている。

イーブックが特殊な形式を採用したのは、PDF書籍に比べてスキャンすれば10分の1の制作コストで済むからだ。これはまだ既存の電子書籍が収益を得るだけの市場に育っていないことの裏返しでもある。事実、安定収益をあげているのは点数が豊富なパピレスだけで、コンテンツを供給する出版社の収益は紙媒体に比べて微々たるものに過ぎない。

環境面であれば今年にはマイクロソフト・リーダーとアドビ・アクロバット eBookリーダーの2大電子書籍閲覧ソフ

トの日本語版が登場し、パソコンユーザーへの普及が期待できる。PDAの人気、さらには近い将来のタブレットPCの登場と、裾野の広がりを予感させる。

ただし、それに頼るばかりではなく、むしろ既存の紙の出版コンテンツの流れにいかん電子書籍を絡ませるかという試みも出てきている。

1つには、電子書籍の発行時期の問題がある。これまでは紙媒体で発行されてから半年ないし1年以上たった過去の作品の電子化・再利用が主流だったが、コンテンツとしてのインパクトはその分弱い。そこで紙から電子化へのスパンを短くすることが考えられる。パブリではロングセラーの続いている松永真理氏の『iモード事件』の配信を開始、一部の写真集系の会社では、すでに紙と電子媒体の同時配信を試みることも出てきている。

さらには、ネットで先にオリジナルコンテンツを先行させるサイトもある。ソネットが運営するe-Novelsでは、人気作家の宮部みゆき氏らのオリジナルが連載されているし、イーブックもモンキー・パンチ氏や里中満智子氏など人気漫画家の新作オリジナルを配信することを決めている。またメールマガジンのmelmalがBOLジャパンと運営する「文学メルマ!」にも文芸作家の連載がある。メールマガジンとの連携は大いにあり得るだろう。

先にネットでコンテンツを配信し、そこで人気が出たものを紙で発行するという考え方は、ネットのプロモーション能力を考えれば合理的な発想であり、逆に紙の書籍は収益が大きく、ステータスもある。メディアミックスを視野に入れたビジネスモデルの追及が今後注目される動きといえるだろう。

(野辺名 豊 フリーライター)

www.paburi.com  
books.bitway.ne.jp  
www.10daysbook.com



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)